

# 令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立佃島小学校

## 学校の教育目標

- ・健康で 明るい子ども
- ・礼儀正しく 思いやりのある子ども
- ・よく考え すすんでものごとに取り組む子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- 基本的な学習習慣及び生活習慣を確立する自律力
- 他者を尊重し、自分の意見や考えを伝えることができる表現力
- 知識・技能を活用し課題の発見と解決に取り組もうとする力

令和6年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

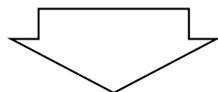
	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和6年度学習力サポートテスト」において、第4, 5, 6学年の国語科全体の平均正答率が区の平均よりもやや下回っている。</li> <li>・第4, 5学年は特に「情報の扱い方に関する事項」の領域が目立って低い。</li> <li>・3学年とも、「文章を書く」において正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報と情報を関連付けたり活用したりする機会が少ない。</li> <li>・自分の考えや意見の中心となるものを明確にすることや、読み手を意識した文章表現や文字制限などの条件に合わせて文章を書く経験が少ない。</li> </ul>
算 数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和6年度学習力サポートテスト」において、第4, 5, 6学年の算数科全体の平均正答率は2~3%程度低い。</li> <li>・4年生では図形領域が区の平均より5%低い。6年生の内容別正答率では立体と体積の項目が3%以上、区の平均より低く、図形分野への課題が見て取れる。</li> <li>・観点別正答率の「知識・技能」の項目は学年が上がるにつれ、区の平均との差が、小さくなっていくが、「思考・判断・表現」の項目は差が縮まらない。</li> <li>・問いに正対した考え方を説明する際に既習事項を活用することに難しさを感じている児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形を求める公式を活用して課題に取り組むことが多いが、その公式が表す意味について表現する機会が少ない。</li> <li>・知識があり、計算はできるが、知識を活用して問題を解いたり、計算の仕組みを理解したりする点に課題がある。</li> <li>・長さや重さ、広さを表す単位を理解していても、量感が身につけていない。</li> <li>・日常の経験と結び付けて考える問題が弱い。</li> </ul>
社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和6年度学習力サポートテスト」において、第4, 5, 6学年の社会科全体の平均正答率が区の平均よりも下回っている。</li> <li>・観点別に見ると「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む態度」が低い傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の資料から必要なものを選んだり、複数の資料を関連付けたりする活動ができていない。</li> <li>・児童が問題意識をもって学習に取り組むことができていない。</li> </ul>
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和6年度学習力サポートテスト」において、第4, 5, 6学年の理科全体の平均正答率が区の平均よりもやや下回っている。</li> <li>・楽しんで取り組んだ実験が学習として定着するまでに時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験や経験はしていても、知識として身につけていない。</li> </ul>
英 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を書く方に個人差がある。(高学年)</li> <li>・英語で表現する方に個人差がある。(高学年)</li> <li>・学習に対する興味・関心の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト形式に慣れていない児童が多い点が考えられる。</li> <li>・表現への抵抗感が見られる。</li> <li>・日常生活で英語にふれる機会が少ない。</li> </ul>
体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和6年度運動能力、生活・運動習慣調査」において、測定種目別に見ると「上体起こし」・「50m走」・「長座体前屈」のポイントが低い傾向にある。加えて、学年が上がるにつれて、上体起こしのポイントが下がりやすい傾向が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動経験の差が運動技能の差につながっている。</li> <li>・授業内で、話し合い活動や、課題発見、解決をする授業展開を構成することが少ない。</li> </ul>

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの情報を関連付けながら読み取ったりわかったことを表現したりする活動を取り入れる。</li> <li>・学習力サポートテスト(R7 4月実施)では、全実施学年で領域「書くこと」が、区の平均を上回るようにする。</li> </ul>
	算 数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形を求める公式が表す意味を理解し、表現する活動を意図的に設定する。</li> <li>・具体的な日常の経験と結び付けたり、身近なものを測定したりし、量感が身につくような活動を多く取り入れる。</li> <li>・学習力サポートテスト(R7 4月実施)では、全実施学年で、区の平均との差を縮める。</li> </ul>
	社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の資料から必要なものを選んだり、複数の資料を関連付けたりすることができる。</li> <li>・児童自身が問題意識をもって、主体的に学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>・学習力サポートテスト(R7 4月実施)では、全実施学年で、区の平均との差を縮める。</li> </ul>
	理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートテストの結果、基礎的な事項の正答率が低いため、基礎事項の理解の定着を目指す。</li> <li>・理科支援員と連携して、予備実験を充実させる。</li> <li>・学習力サポートテスト(R7 4月実施)では、全実施学年で、区の平均との差を縮める。</li> </ul>
	英 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習力サポートテスト(R7 4月実施)では、第6学年の「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」の正答率がさらに向上するようにする。</li> </ul>
	体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和6年度運動能力、生活・運動習慣調査」において、測定種目別に見ると「上体起こし」・「50m走」・「長座体前屈」のポイントが参加校の平均を上回るようにする。</li> </ul>
②授業改善	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用して、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実現をめざしていく。</li> <li>・ユニバーサルデザインを取り入れ、個別に支援が必要な児童に適した授業改善を行う。</li> <li>・教科担任制のもと、教える教科に専念した教材研究を行い、質の高い教科指導を行っていく。</li> </ul> <p><b>【指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価教員アンケート「授業内容」に関する項目で肯定的評価の95%以上を目指す。</li> <li>・校内研究での学習用タブレットの効果的な使用方法の研究を通して、教員の授業における学習用タブレットのICT機器活用力の向上を図る。</li> </ul>	
③家庭との連携	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便り、学年便り及び各種アンケート等の配布物のデジタル化を行っていく。</li> <li>・月1回の学校公開を実施し、家庭、地域に本校の教育活動の理解を深めていく。</li> </ul> <p><b>【指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価保護者アンケート「保護者との連携」の項目において、肯定的評価が90%以上を目指す。</li> </ul>	
④体力向上	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで体を動かし、運動に親しむことができるような取り組みを行う。</li> <li>・他者の動きのよさを感じ、実践することで、運動への楽しさを実感できるようにする。</li> </ul> <p><b>【指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価児童アンケート「体力向上」の項目において、肯定的評価が70%以上を目指す。</li> </ul>	

## 【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して文を書く機会を設けて、書く力の育成に努める。</li> <li>・学級文庫や学校図書館を活用した読書活動を促進して、情報と情報との関係について理解し、要旨を捉えたり、要約したりする力が高まるようにする。</li> <li>・自分の考えをもたせる指導を充実させる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を活用し、自分の考えの根拠をはっきりさせて説明する機会を増やす。</li> <li>・学習した内容と日常生活の中にある数学的な事象が結びつくような工夫をする。</li> <li>・学習用タブレット、ワイド等のICT機器や、ミライシード、スカイメニュー等のアプリを有効に活用し、児童の学習意欲を引き出し思考力・判断力・表現力を高める工夫をする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の資料から必要なものを選んだり、複数の資料を関連付けたりする活動を多く取り入れる。</li> <li>・児童自身が問題意識をもって学習に取り組めるよう、疑問点を見いだしたり、問題に対して予想したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験を充実させるために理科支援員と提携して実験準備を進める。</li> <li>・日常生活と結びつけて、予想したり考察したりする力を更につけていく。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容に必然性をもたせ、実際に使える表現を児童が積極的に発話できる機会を増やす。</li> <li>・テストに慣れるために小テストなどを授業に取り入れる。</li> <li>・興味をもって話を聞けるよう、掲示物を生かしたり、ALTを活用したりする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器械運動領域でどの学年も技能の高まりが見やすくなるように、場の工夫をしたりICT機器を活用したりして学習環境を整える。</li> <li>・技能向上への意識が弱い領域では、学習カードを充実させたり、規則や場の選択肢から選ばせたりして児童の積極性を高める。</li> </ul>
②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いや考えを表現し、深めていく児童の育成を目指して、教材との出会いやICT機器の活用方法を工夫し、個別最適な学びや協働的な学びに重点を置いた授業づくりに取り組む。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員相互で指導法を伝え合うOJT研修で、学習用タブレット、電子黒板等のICT機器の有効な活用方法について学び合い、授業改善に取り組む。</li> </ul>
③家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自主学習」の取り組み方、様々な取組事例を紹介するなど、児童の主体的な学びが促進できるように、家庭との連携を図りながら、指導をしていく。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月末に個人面談において、学校での学習状況や学校生活の様子について、きめ細かく保護者へ伝える。</li> </ul>
④体力向上	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の運動機会の確保に向け、「校庭遊び」の回数を増やすとともに、生活時程の見直しを図り、夏期はサマータイム制を導入して気温の低い朝に校庭遊びができるようにする。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の中で、他者の動きを見たり、助言したりし合う時間を設け、お互いに技術を高め合い、喜びあえるようにする。</li> </ul>

## 【取組結果の検証】



学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>書く観点を明確にし、文の組み立てを考えてから文章を書く活動を取り入れたことで、わかりやすい文章を書く力が身に付いてきている。</li> <li>いくつかの情報を関連付けて物事を伝える方法が理解できてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰に何を伝えるのか明確にして話をしたり、文を書いたりする経験を増やしていく。</li> <li>自分の考えをもたせる指導を充実させる。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数が得意な児童は自分の考えを説明することが出来ている。算数を苦手と感じる児童は、発表を通して考えを協働的に導き出せるようになった。</li> <li>学習用タブレットやワイド等のICT機器や、アプリの有効活用をとおして児童の学習意欲は引き出されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>式の意味が分かったり、立式の根拠を説明したりする事を苦手とする児童も多い。キャンパや、オクリンクプラスといった他者の考えを参照しやすく、比較検討をしやすいアプリや、グーグルスライドといった自己の振り返りの蓄積等ができるアプリの積極的活用を推進する。</li> <li>多様な考えの交流を通して、理解を深められるようにしていきたい。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図・年表・文書資料・映像資料から、問いを解決するための情報を個別で選べるようになった。</li> <li>学習問題を考える際に、児童が問いを話し合い、見いだせるようになった。</li> <li>問いに対する答えを授業で得た情報からどのようにまとめるか、思考することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が資料を精選し、複数の資料を読み取ることができるようにする。</li> <li>見通しや振り返りも大切に、主体的に学習に取り組めるようにする。</li> <li>知識・技能が身についている児童に、その知識を使ってどのように思考させるか発問や学習感想の工夫が必要である。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科支援員と連携して、予備実験を充実させることができた。</li> <li>日常生活と結び付けて、予想したり考察したりする力を付けることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験が少ないのか、「砂鉄は100円ショップで買えるのか？」のような質問も出る。いろいろな経験をさせていくことが望ましい。</li> <li>高学年になると学力差が広がってくる。学力が低い児童は結果の考察を書くことに困難を感じているので、その力を積み上げていく必要がある。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時単語の書き取りと発音練習のワークシートを行なったことで文字と音との関係性を理解する児童が増えた。</li> <li>自分たちの作品が展示されることで成果が見えやすくなり次の活動へのモチベーション向上につながった。</li> <li>発表も一方通行ではなくクイズ形式にするなどの工夫により、児童が表現することへの抵抗が減った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアでのやり取りでは5年、6年を中心に恥ずかしがる児童が未だに3割ほどいる。授業はじめの挨拶後、機械的に簡単なペアワークを入れて全員が話す状況を作る。</li> <li>活動内容によって好き嫌いがはっきりと出るため、児童が興味をもてる材料でアプローチする。</li> <li>レストランでの英語や道案内など、使える英語の習得に力を入れ、実際の場面で「英語が通じた」と児童が思える経験を積めるよう、場面設定を増やす。</li> </ul>

	<p>体育・保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの種目については、体育朝会などで手本の紹介やコツのアドバイスなどを伝えたことにより、技術の習得につながった。</li> <li>・学習用タブレットを使用することで、自分の課題を客観的に把握することができ、自己の課題に向けた運動に取り組むことができた。</li> <li>・場の工夫をすることで、児童の意欲が向上した。今後は、運動の特性(ねらい)を味わえる意図的な場の設定を教師が考えていき、教員全体に周知していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器械運動領域は、どの学年も技能の高まりが見えにくい。道具や場の工夫をする以外にも、学年をまたいで系統的な指導を行っていく必要がある。</li> <li>・中学年以上では教科担任制を行っているので、学年間での連携を充実させ、各学年の指導事項を精査して行く。その中で、学習カードの充実も図る。</li> </ul>
<p>② 授業改善</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の学習用タブレットの活用が定着し、児童が自らの理解度に応じて学習を進めたり、拡大表示機能を使って読みやすくする工夫をしたり、意見を共有したりする場面が増えた。</li> <li>・校内研究において学習用タブレットの効果的な活用方法について研究を行ったことで、教員の ICT 機器活用力が向上した。</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善により、学習支援が必要な児童にとっても学びやすい環境が整った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の ICT 活用スキルに差があり、十分に活用できない児童がいる。また、ICT 活用が目的となり、学習内容の理解が不十分なままで終わってしまうケースがある。</li> <li>・児童の ICT スキル向上のため、活用方法に関する基本的な指導を計画的に行う。</li> <li>・校内研修で教員同士が ICT 活用の成功事例を共有し、活用方法について学び、さらに活用力を高めていく。</li> </ul>
<p>③ 家庭との連携</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自主学習に意欲的に取り組み、自分なりに工夫しながら学習を深める児童が見られた。</li> <li>・面談を通じて、児童の成長した点や頑張りを共有し、学校と家庭が協力して支えることで、より良い学習環境を整えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童によっては「何を学習すればよいかわからない」「計画的に進めるのが難しい」といった声もあり、児童によって取り組みに差が見られた。</li> <li>・自主学習のアイデア集を作成し、家庭での学習の参考になるよう提供する。</li> <li>・学習の進め方について、家庭とも共有し、サポートできる環境を整える。</li> </ul>
<p>④ 体力向上</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中休みは、校庭と体育館を学年別で使用するだけでなく、中学校校庭も使用することで広い場所で運動ができ、体力向上に努めることができた。</li> <li>・体育朝会で縄跳び等を取り上げたことで、休み時間に挑戦する児童が増え、体力向上につながる部分があると感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育朝会で扱う内容を充実させ、様々な運動に触れる機会を多く設ける。</li> <li>・マイスクールスポーツの充実を図れるように、ワークシートの工夫をしていく。</li> </ul>